

審査の結果の要旨

氏名 密山 要用

本研究は近年、世界的な都市への人口集中により重要性が高まっている、都市部の総合診療医・家庭医（以下、GP/FP とする）の実践的能力であるコンピテンシーを明らかにするため、半構造化面接法による個別インタビューと質的分析による都市部と非都市部のコンピテンシーの共通と差異についての検討（第1の研究）と、修正デルファイ法による内容妥当性が高く教育現場に実装可能なコンピテンシーリストの作成を試みた（第2の研究）ものであり、下記の結果を得ている。

1. 第1の研究では、10名のGP/FPを対象とした個別インタビューのデータをSCAT法と呼ばれる質的分析法によって分析した結果、5つの領域に分類可能な42のテーマを抽出した。これらの分析過程から、都市部／非都市部ともにプライマリ・ケアの専門家としての基本的なコンピテンシーは共通しているが、都市部／非都市部それぞれに特徴的なコンピテンシーとそれらに影響を与える特徴的なコンテキストが存在することを示した。そしてそれらの都市部の患者・コミュニティの特徴的なコンテキストを理解し、患者中心のケアを提供できること、すなわち都市部における”Contextual care”の実践ができることが都市部のGP/FPのコンピテンシーの中心的概念であることを示した。特に都市部のGP/FPのコンピテンシーとして、文化的能力や都市部の社会的不利にある集団のケア、分断されたケアの統合などの10項目を明らかにした。
2. 第2の研究では、4つの属性の異なる集団（医師、看護師、患者、医学教育専門家）の39名のパネリストを集めた。629件の文献レビューからテーマ分析法により作成した初期コンピテンシーリスト34項目に対して、パネリストの合意の程度に関する量的データと修正意見の質的データを分析し、リストの再編集を繰り返した。特に第1ラウンドではパネリストからの新規提案のコンピテンシーとして6項目を得た。最終的に3ラウンドで参加者間での合意に達し、一定の内容妥当性が保証された都市部のGP/FPに特に必要な18項目のコンピテンシーリストを得た。それらのコンピテンシーは都市部の特徴を記述した、発展的なコンピテンシーであり、都市部のGP/FPの既知のコンピテンシーである文化的能力や都市部における社会的不利にある人々のケアに加えて、都市部におけるケアの連携、調整、統合の能力が重要であることを新たに明らかにした。

以上、本研究は、都市部のGP/FPのコンピテンシーの中心的概念を明らかにするとと

もに、内容妥当性を担保した 18 項目のコンピテンシーリストを明らかにしたものである。また、都市化が進行し人口減少・高齢化が進む都市において「患者を取り巻く複雑な医療・社会サービスと効果的に連携・調整・統合することができる」能力が都市の GP/FP にとって主要なコンピテンシーであることを新たに明らかにした。本研究はこれまで知見が限定的であった都市部の GP/FP のコンピテンシーに関する医学教育研究において重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。